

4 ストリーミングサーバ ソフトウェア

ストリーミングサーバにバンドルされている各種管理ソフトウェア(ユーティリティ)について説明します。ユーティリティには、ストリーミングサーバにインストールするものとネットワーク上の管理コンピュータ(PC)にインストールするものなどがあります。ユーティリティは、ストリーミングサーバの保守性や管理機能を向上します。

添付のCD-ROMについて(→71ページ)	ストリーミングサーバに添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に収められているソフトウェアについて紹介します。
EXPRESSBUILDER(→72ページ)	セットアップツール「EXPRESSBUILDER」について説明します。
ExpressPicnic(→83ページ)	シームレスセットアップ用パラメータディスク(セットアップパラメータFD)を作成するツール「ExpressPicnic」について説明します。
ESMPRO(→91ページ)	ストリーミングサーバの統合システム管理ソフトウェア「ESMPRO」について説明します。
MWA(→94ページ)	ストリーミングサーバのリモート管理ソフトウェアです。
オフライン保守ユーティリティ(→99ページ)	ストリーミングサーバの保守用ソフトウェアです。
システム診断(→101ページ)	ストリーミングサーバを診断するソフトウェアです。
Global Array Manager (GAM) (→104ページ)	SCSIモデルに搭載したディスクアレイコントローラや構築しているアレイディスクの保守・管理をするアプリケーションです。
自動クリーンアップツール(→111ページ)	SCSIモデルのアレイディスクのコンシステンシ(整合性)チェックを自動的に行うアプリケーションです。

次ページに続く

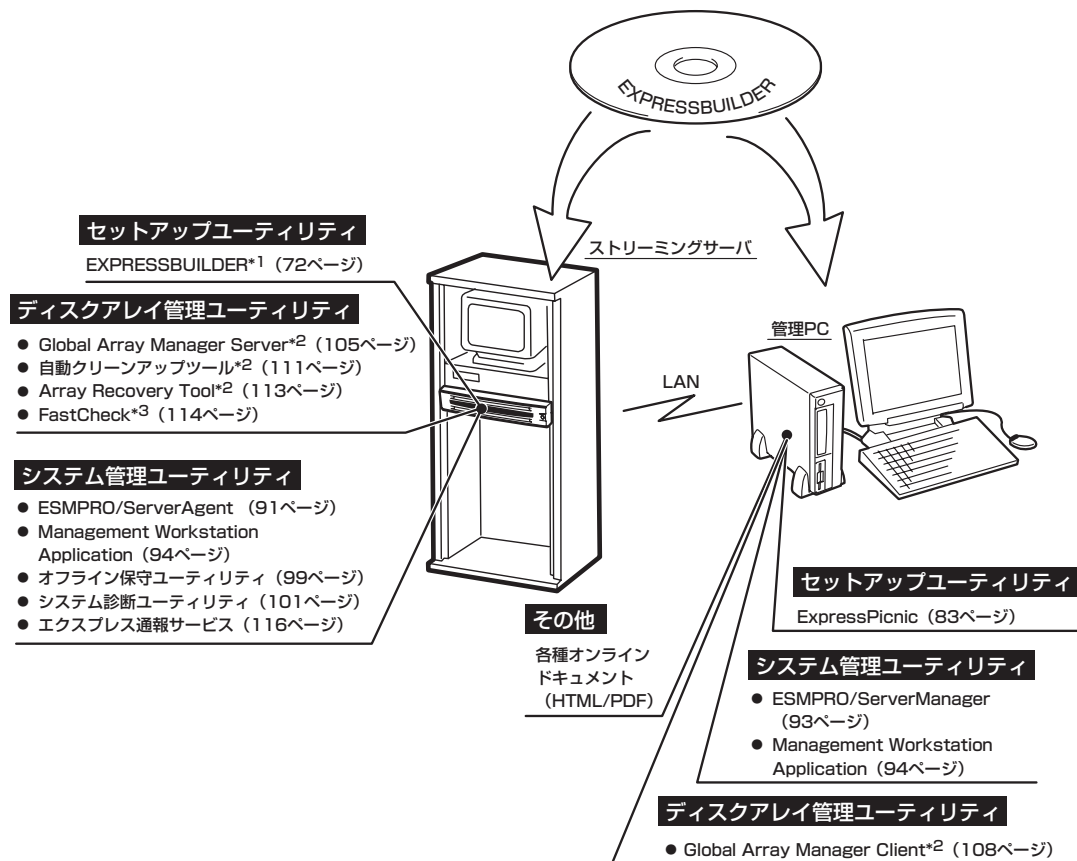
Array Recovery Tool(→113ページ)	SCSIモデルの不良ハードディスク(DEAD状態)を検出すると自動的にリビルド、整合性チェックを行い、システムドライブを復旧させるアプリケーションです。
FastCheck(→114ページ)	IDEモデルのディスクアレイの管理・監視をするソフトウェアです。
エクスペレス通報サービス(→116ページ)	障害発生時に自動的に保守サービス会社へ通報するソフトウェアです。
ESMPRO/UPSController Ver.2.1(→119ページ)	ストリーミングサーバに接続したインテリジェントUPS(無停電電源装置)を管理をするソフトウェアです。
PowerChute <i>plus</i> Ver.5.11J/5.2J(→123ページ)	ストリーミングサーバに接続したスマートUPS(無停電電源装置)を管理をするソフトウェアです。

添付のCD-ROMについて

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER™」には、ストリーミングサーバを容易にセットアップするためのユーティリティや各種バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、ストリーミングサーバの機能をより多く引き出すことができます。



CD-ROM「EXPRESSBUILDER」は、ストリーミングサーバの設定が完了した後でも、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用される機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。



*1 コンソールレスで操作する場合。COM/LANポートを使用可能。
*2 SCSIモデル(N8100-787/789)で使用可能。IDEモデルの場合は、オプションのディスクアレイコントローラを搭載している時に使用可能。
*3 IDEモデル(N8100-788)で使用可能。



- ビルド・トゥ・オーダで購入した装置のハードディスクには電源管理をする次のユーティリティがインストールされている場合があります。それぞれのページを参照してセットアップをしてください(これらのユーティリティはEXPRESSBUILDERの中には含まれていません)。
 - ESMPRO/UPSController Ver. 2.1(119ページ参照)
 - PowerChute plus Ver. 5.11J/5.2J(123ページ参照)
- ストリーミングサーバのRAID設定を変更するユーティリティ「SETUP」やディスクアレイの設定をするユーティリティ「RAID EzAssist」(SCSIモデル)、「FastBuild」(IDEモデル)はEXPRESSBUILDERには含まれていません。このユーティリティはストリーミングサーバ内のボード上のチップに搭載されています(5章参照)。

EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、ストリーミングサーバに接続されたハードウェアを自動検出して処理を進めるセットアップ用統合ソフトウェアです。EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの際にはハードウェアの構成を運用時と同じ状態にしてください。

起動メニューについて

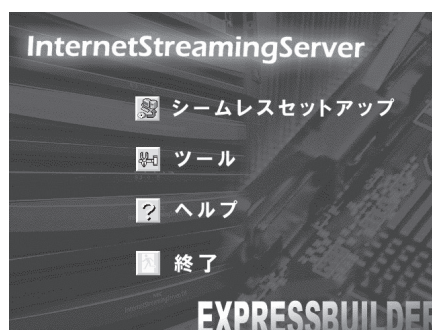
EXPRESSBUILDERには3つの起動方法があります。起動方法によって表示されるメニューや項目が異なります。

● EXPRESSBUILDER CD-ROMからブート(起動)する

EXPRESSBUILDERをストリーミングサーバのCD-ROMドライブにセットして起動し、EXPRESSBUILDER内のシステムから起動する方法です。

この方法でストリーミングサーバを起動すると右に示す「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。

このメニューにある項目からストリーミングサーバをセットアップします。



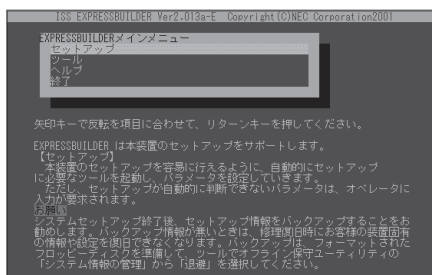
- ストリーミングサーバ以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていたストリーミングサーバ以外のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。名前は同じですが、中のモジュールや機能は異なります。
- メニューの「シームレスセットアップ」を実行するとあらかじめインストールされているOSを消去します。OSもインストールし直す必要があります。

EXPRESSBUILDER トップメニューについてはこの後の「EXPRESSBUILDER トップメニュー」を参照してください。

● コンソールレスでEXPRESSBUILDER CD-ROMからブート(起動)する

キーボードやマウス、ディスプレイ装置をストリーミングサーバに接続していない状態でEXPRESSBUILDERをストリーミングサーバのCD-ROMドライブから起動すると、LANかCOM(シリアルポート)で接続している管理用コンピュータ(PC)の画面には、右に示す「EXPRESSBUILDER メインメニュー」が表示されます。

管理PCからこのメニューにある項目を使ってストリーミングサーバを遠隔操作をします。





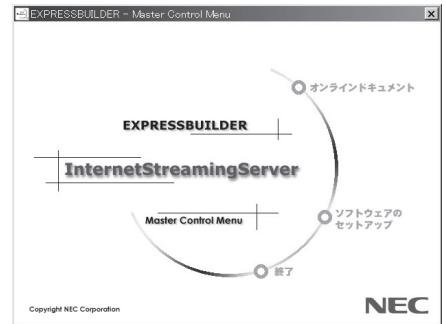
- ストリーミングサーバ以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていたストリーミングサーバ以外のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。名前は同じですが、中のモジュールや機能は異なります。
- コンソールレス時の使用は、本体にキーボードが接続されていないことが条件です。本体にキーボードが接続されていると、EXPRESSBUILDERはコンソールがあると判断し、以下の動作を行いません(管理PCにメニューを表示しません)。

EXPRESSBUILDERメインメニューについてはこの後の「コンソールレスメニュー」を参照してください。

● Windowsが起動した後にEXPRESSBUILDERをセットする

Windows 95/98/Me、またはWindows 2000、Windows NT 4.0が起動した後に、EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセットするとメニューが表示されます(右図参照)。表示されたメニューダイアログボックスは「マスターコントロールメニュー」と呼びます。

マスターコントロールメニューについてはこの後の「マスターコントロールメニュー」を参照してください。



EXPRESSBUILDERトップメニュー

EXPRESSBUILDERトップメニューはハードウェアのセットアップおよびOS(オペレーティングシステム)のセットアップとインストールをするときに使用します。

起 動

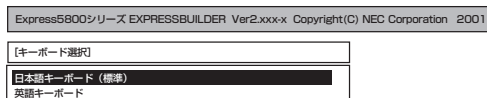
次の手順に従ってEXPRESSBUILDERトップメニューを起動します。

1. 周辺装置、ストリーミングサーバの順に電源をONにする。
2. ストリーミングサーバのCD-ROMドライブへCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)が、電源をOFF/ONしてストリーミングサーバを再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

キーボードの選択

EXPRESSBUILDERを初めて起動すると、キーボードの選択メニューが現れます。購入したシステムで使用するキーボードを選択してください。なお、このメニューは、1度設定を行うと以降は表示されません。



1度設定を行った後、キーボードの設定を変更したい場合は、EXPRESSBUILDER起動中(画面中央部に「EXPRESSBUILDER」のロゴ表示があるとき)に<K>キーを数秒間押してください。画面にキーボード選択画面が現れ、キーボードの再設定ができます。

EXPRESSBUILDERが起動すると、以下のようなEXPRESSBUILDERトップメニューが現れます。



シームレスセットアップ

セットアップパラメータFDの情報を参照して、切れ目なく(シームレスに)セットアップを行います。OSの再インストールを含むセットアップを行う場合、こちらのセットアップ方式を選択してください。



ツール

EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別に起動し、オペレータによるセットアップを行います。また、インストール済みOSに影響を与えることなくセットアップを行うことができます。



ヘルプ

EXPRESSBUILDERについて説明します。セットアップを実行する前に一通り目を通しておくことをお勧めします。



終了

EXPRESSBUILDERの終了画面が表示されます。



シームレスセットアップ

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS (Windows 2000)、各種ユーティリティのインストールまでを添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使って切れ目なく(シームレスで)セットアップできるストリーミングサーバ独自のセットアップ方法です。

購入時の状態と異なるハードディスクのパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用すると煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。

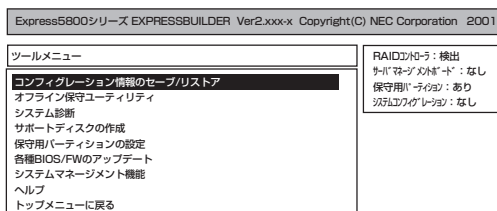
「シームレスセットアップ」を選択すると、OSのインストールを開始します。



「シームレスセットアップ」は最初からのセットアップであることを前提としているため、実行するとハードディスクの内容が失われることがあります。

ツールメニュー

ツールメニューは、EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別で起動し、オペレータが手動でセットアップを行います。「シームレスセットアップ」では自動設定できない設定や、より詳細に設定したい場合などに使用してください。



また、システム診断やサポートディスクの作成、保守用パーティションの設定を行う場合も、ツールメニューを使用します。次にツールメニューにある項目について説明します。

● コンフィグレーション情報のセーブ/リストア

このメニューはIDEディスクミラーリングコントローラが接続されているとき表示されます。IDEモデルには、標準でIDEディスクミラーリングコントローラが搭載されています。

ディスクアレイシステムのコンフィグレーション情報をフロッピーディスクに保存または、フロッピーディスクから復元することができます。

－ コンフィグレーション情報のセーブ

フロッピーディスクにコンフィグレーション情報を保存します。フォーマット済みのフロッピーディスクを用意してください。

－ コンフィグレーション情報のリストア

フロッピーディスクからコンフィグレーション情報を復元します。「コンフィグレーション情報のセーブ」で作成したフロッピーディスクを用意してください。

● オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティとは、障害発生時に障害原因の解析を行うためのユーティリティです。詳細は99ページまたはオンラインヘルプを参照してください。

● システム診断

本体装置上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどの接続を検査します。システム診断を実行すると、本体装置に応じてシステムチェック用プログラムが起動します。101ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作してください。

● サポートディスクの作成

サポートディスクの作成では、EXPRESSBUILDER内のユーティリティをフロッピーディスクから起動するための起動用サポートディスクやオペレーティングシステムのインストールの際に必要なサポートディスクを作成します。なお、画面に表示されたタイトルをフロッピーディスクのラベルへ書き込んでおくと、後々の管理が容易です。

サポートディスクを作成するためのフロッピーディスクはお客様でご用意ください。

－ Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows 2000をインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します（「シームレスセットアップ」でインストールする場合は必要ありません）。

－ MS-DOS起動ディスク

MS-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

－ オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティの起動用サポートディスクを作成します。

－ システム診断ユーティリティ

システムチェックプログラムの起動用のサポートディスクを作成します。

● 保守用パーティションの設定

ここでは、保守用パーティションに対するメンテナンスをすることができます。保守用パーティションが作成されていないときは「保守用パーティションの作成」と「オフライン保守ユーティリティのアンインストール」以外の項目は表示されません。

重要 「保守用パーティションの設定」の各項目を実行している間は、ストリーミングサーバをリセットしたり、電源をOFFにしたりしないでください。

<ストリーミングサーバのシステムディスク構成例>



空き領域

オペレーティングシステム用パーティション

ブレイクインストールの場合、あらかじめ領域が設定されています(容量は、お客様のオーダーによって異なります)。

保守用パーティション(約16MB)

ストリーミングサーバの保守ユーティリティで使用する共通モジュールが格納されています。また、EXPRESSBUILDERでのセットアップ時に作業領域としても利用されます。オペレーティングシステムからは「MAINTE_P」のFATパーティションとして認識されます。



出荷時にオペレーティングシステムがインストールされていない場合は、保守用パーティションは作成されていません。EXPRESSBUILDERを使ってセットアップをすると自動的に保守用パーティションを作成することができます。

－ 保守用パーティションの作成

16MB程度の領域を内蔵ハードディスク上へ確保し、続けて各種ユーティリティのインストールを行います。すでに保守用パーティションが確保されている場合は、各種ユーティリティのインストールを行うことができます。

－ 各種ユーティリティのインストール

各種ユーティリティ(システム診断/オフライン保守ユーティリティ)を、CD-ROMから保守用パーティションへインストールします。インストールされたユーティリティは、オフライン保守ユーティリティをハードディスクから起動した場合に、使用することができます。

ー 各種ユーティリティの更新

各種ユーティリティ(システム診断/オフライン保守ユーティリティ)を、フロッピーディスクから保守用パーティションへコピーします。各種ユーティリティがフロッピーディスクでリリースされたときに実行してください。それ以外では、本項目は使用しないでください。

ー オフライン保守ユーティリティのアンインストール

システムに登録されているオフライン保守ユーティリティインストール情報を削除します。ユーティリティのファイルそのものは削除されません。この機能を実行すると、オフライン保守ユーティリティをハードディスクから起動することができなくなります。オフライン保守ユーティリティのアンインストール後、オフライン保守ユーティリティをハードディスクから起動するためには、再度、各種ユーティリティのインストールを行う必要があります。

ー FDISKの起動

MS-DOSシステムのFDISKコマンドを起動します。パーティションの作成/削除などができます。

● 各種BIOS/FWのアップデート

インターネットで配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」を使用して、ストリーミングサーバのBIOS/FW(ファームウェア)をアップデートすることができます。「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」については、次のホームページに詳しい説明があります。

『58番街』: <http://www.express.nec.co.jp>

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容を確認した上で、記載内容に従ってアップデートを行ってください。「README.TXT」はWindows NTのメモ帳などで読むことができます。



BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本体の電源をOFFにしないでください。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

● システムマネージメント機能

ー BMCファームウェアの更新

インターネットで配布される「BMC FW update データ」を使用して、ストリーミングサーバのBMC(Baseboard Management Controller)ファームウェアを更新することができます。



BMCファームウェアの更新作業をしている間はストリーミングサーバの電源をOFFにしないでください。更新作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

ー システムマネージメントの設定

BMC/RomPilotの持つ通報機能、リモート制御機能を使用するための設定を行います。

- ヘルプ

EXPRESSBUILDERの各種機能に関する説明を表示します。

- トップメニューに戻る

EXPRESSBUILDERトップメニューを表示します。

コンソールレスメニュー

EXPRESSBUILDERは、ストリーミングサーバにキーボードなどのコンソールが接続されていなくても各種セットアップを管理用コンピュータ(管理PC)から遠隔操作することができる「コンソールレス」機能を持っています。



- ストリーミングサーバ以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていたストリーミングサーバ以外のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。名前は同じですが、中のモジュールや機能は異なります。
- コンソールレス時の使用は、本体にキーボードが接続されていないことが条件です。本体にキーボードが接続されていると、EXPRESSBUILDERはコンソールがあると判断し、コンソールレス動作を行いません(管理PCにメニューを表示しません)。

設定情報ファイルの作成

コンソールレスでストリーミングサーバを遠隔操作するためには、操作する管理PCとの通信方法や詳細な設定を保存した「設定情報ファイル」(3.5インチフロッピーディスク)が必要です。

設定情報ファイルは、EXPRESSBUILDERにあるアプリケーション「MWA(Management Workstation Application)」を使用します。



「MWA」の詳細な説明については、EXPRESSBUILDER CD-ROM内に格納されているオンラインドキュメント「MWA ファーストステップガイド」を参照してください。オンラインドキュメントはマスターコントロールメニューから開くことができます(82ページ参照)。

1. 管理PCにMWAをインストールする。

詳しくは、本編で説明している「MWA」の項目またはCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内に格納されている「MWA ファーストステップガイド」を参照してください。

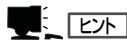
2. フォーマット済みの1.44MBのフロッピーディスクを管理PCのフロッピーディスクドライブにセットする。
3. MWAの「RomPilot & BMC搭載モデル用コンフィグレーション」を実行し、コンフィグレーション情報を設定/登録後、以下のファイル名でフロッピーディスクに書き込む。

<設定情報ファイル名>: CSL_LESS.cfg

設定項目とその値は次のとおりです。

クロスケーブルによるコンソールリダイレクション	
使用モード	ダイレクト (クロスケーブル)
ボーレート	19.2Kbps
フロー制御	なし

LANによるコンソールリダイレクション	
IPアドレス	任意
サブネットマスク	任意
デフォルトゲートウェイ	任意
1次通報先	管理用PCのIPアドレス



以下のBIOS設定情報はデフォルト値にセットされます。

- Rompilot Support: [Enabled]
- LAN Controller: [Enabled]
- Serial Port Address: [Serial Port2 (2F8h/IRQ3)]
- Serial Port 2: [2F8, IRQ3]

起 動

次の手順に従って起動します。



- 起動する前に「設定情報ファイル」を用意しておいてください。
- BIOSセットアップユーティリティのBootメニューで起動順序を変えないでください。CD-ROMドライブが最初に起動するようになっていないと使用できません。

管理PC側の手順

クロスケーブルによるコンソールリダイレクション

1. MWAの[ファイル]メニューから[環境設定]—[COMポート]の順にポイントして[COMポートの設定]ダイアログボックスを表示させ、以下のように設定する。

<COMポートの設定>

ポート : 接続する管理コンピュータ側のCOMポート
ボーレート : 19200
フロー制御 : None

2. MWAの[プロパティ]ダイアログボックスで、以下のように設定する。

<[ID]ページ>

接続形態 : COM
COM : ダイレクト(クロスケーブル)

3. MWAの[ファイル]メニューの[開く]コマンドからサーバを選択してサーバウィンドウを開き、[接続]ボタンをクリックする。

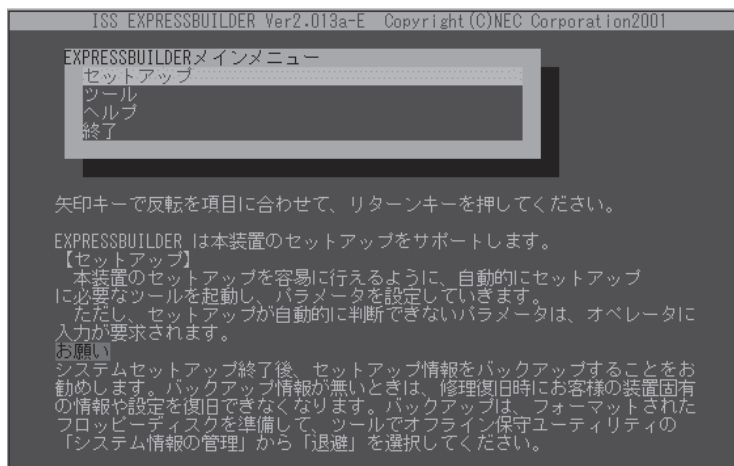
LANによるコンソールリダイレクション

1. MWAの[プロパティ]ダイアログボックスで、以下のように設定する。
<[アラート通知]ページ>
[標準設定を使用する]のチェックを外して[アクティブート]のリセットにチェックする。
2. MWAの[RomPilot接続時の動作]で[MWAモードで実行]をチェックする。
[RomPilot接続時の動作]は、MWAの[ファイル]メニューの[開く]コマンドからサーバを選択してサーバウィンドウを開き、そのウィンドウ上で右クリックして表示されるポップアップメニューにあります。

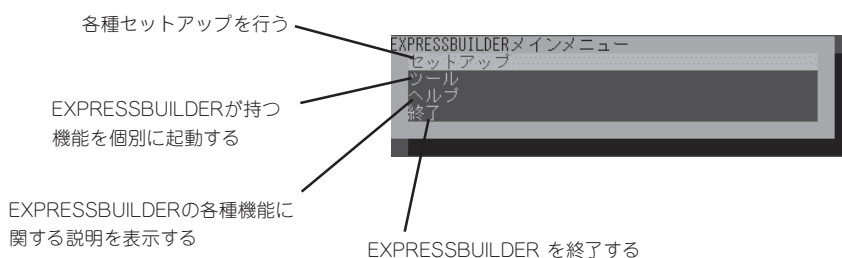
サーバ側の手順

1. コンソールレス機能で操作するストリーミングサーバ本体のBIOSセットアップユーティリティを起動して、Bootメニューの起動順序でCD-ROMドライブが最初に起動するよう設定する。
2. 本体のフロッピーディスクドライブに「設定情報ファイルの作成」で作成したフロッピーディスクをセットする。
3. 本体のCD-ROMドライブへCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。
4. 本体の電源をOFF/ONして本体を再起動する。

再起動中に設定情報がロードされ、メインメニューが管理PCに表示されます。ハードウェアのセットアップ、各種ユーティリティを管理PCから実行できるようになります。



メインメニューにある項目は次のとおりです。



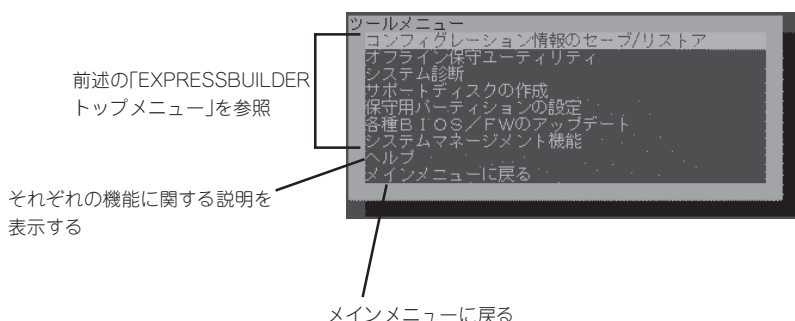
セットアップ

本体のハードウェア構成をチェックして、ディスクアレイコンフィグレーションおよび保守用パーティションの設定を自動的に行います。



ツールメニュー

メインメニューでツールを選択すると以下のメニューが表示されます。ツールメニューにある項目は、「EXPRESSBUILDER トップメニュー」の「ツールメニュー」の項目の中からコンソールレスで使用できるもののみがあげられています。それぞれの機能については、前述の「EXPRESSBUILDER トップメニュー」を参照してください。



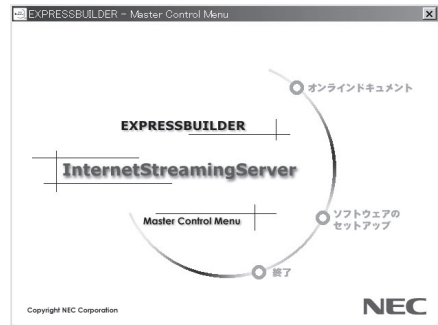
- 「EXPRESSBUILDER トップメニュー」の「ツールメニュー」にある機能と比較すると次の点が異なります。
 - － 「システム診断」の内容や操作方法(詳しくは、101ページを参照してください)
 - － 「サポートディスクの作成」で作成できるディスクの種類
- 「サポートディスクの作成」で作成できるディスクで起動すると以下のメッセージが表示されます。メッセージが表示されている間に<R>キーを押してください。管理PCから操作することができるようになります。

```
Starting xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx.  
Press 'R' key if you want to operate from the remote console.
```

- MS-DOS起動ディスクについて
本体装置にキーボードが接続されていない状態では、<R>キーを押さないと起動しません。本体装置にキーボードが接続されていない状態で管理PCから操作する場合は必ず<R>キーを押して起動してください。
- システム診断ユーティリティについて
本体装置にキーボードが接続されていない状態では、システム診断画面はローカルコンソール画面に表示されません。ローカルコンソール画面に表示し操作を行う場合は、必ず本体装置にキーボードを接続して、起動してください。

マスターコントロールメニュー

Windows 95/98/Me、またはWindows 2000、Windows NT 4.0が動作しているコンピュータ上で添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットすると、「マスターコントロールメニュー」が自動的に起動します。



ヒント

システムの状態によっては自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROM上の次のファイルをエクスプローラ等から実行してください。

¥MC¥1ST.EXE

マスターコントロールメニューからは、Windows 95/98/Me、Windows 2000、Windows NTで動作する各種バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメントの参照することができます。



チェック

オンラインドキュメントはHTML文書で記述されています。オンラインドキュメントを参照する前に、あらかじめご使用のオペレーティングシステムへHTMLブラウザをインストールしておいてください。また、HTML文書がブラウザに正しく関連付けられていないとファイルが開けないことがあります。そのようなときは236ページを参照して関連付けを再設定してください。



ヒント

オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAcrobat Readerがインストールされている必要があります。Acrobat Readerがインストールされていないときは、はじめに[ソフトウェアのセットアップ]の[Acrobat Reader]を選択して、Acrobat Readerをインストールしておいてください。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックで現れるポップアップメニューから行います。



重要

CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

ExpressPicnic

「ExpressPicnic®」は、ストリーミングサーバのセットアップで使用する「セットアップパラメータFD」を作成するツールです。

EXPRESSBUILDERとExpressPicnicで作成したセットアップパラメータFDを使ってセットアップをする
と、いくつかの確認のためのキー入力を除きOSのインストールから各種ユーティリティのインストールま
でのセットアップを自動で行えます。また、再インストールのときに前回と同じ設定でインストールする
ことができます。「セットアップパラメータFD」を作成して、EXPRESSBUILDERからストリーミングサー
バをセットアップすることをお勧めします。



「セットアップパラメータFD」がなくてもWindows 2000をインストールすることはできま
す。また、「セットアップパラメータFD」は、EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの
途中で修正・作成することもできます。

ExpressPicnicのインストール

セットアップパラメータFDを作成するためにWindows 2000、またはWindows NT 3.51
以降、Windows 95/98/Meで動作しているコンピュータにExpressPicnicをインストール
します。



ExpressPicnicはPC98-NXシリーズ・PC-9800シリーズ・PC-AT互換機で動作します。

Windows 2000・Windows NT 4.0・Windows 95/98/Me

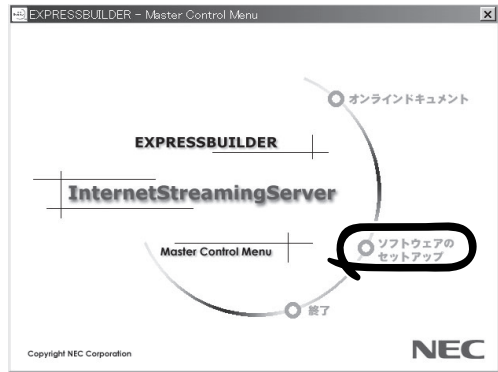
Windows 2000、またはWindows NT 4.0、Windows 95/98/Meで動作しているコン
ピュータの場合は次の手順でインストールします。



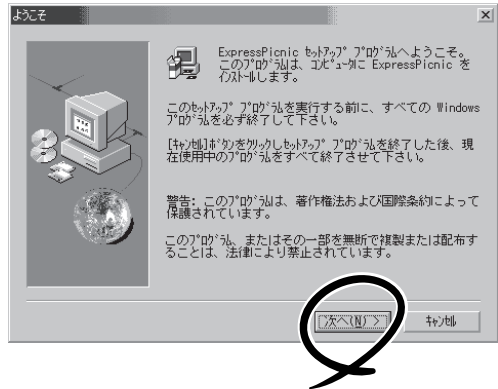
お使いになっているモデルによって画面に表示される内容が多少異なることがありますが、
同じ手順でセットアップすることができます。

1. OSを起動する。
2. 添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。
マスターコントロールメニューが表示されます。

- 画面上で右クリックするか、[ソフトウェアのセットアップ]を左クリックする。
メニューが表示されます。
- [ExpressPicnic]をクリックする。
セットアップウィザードが起動します。



メッセージに従ってインストールを続けてください。



チェック

[ユーザの情報]ダイアログボックスの [シリアル番号]を入力する必要はありません。

インストールを完了したら[終了]ボタンをクリックし、「セットアップパラメータFDの作成」に進んでください。



Windows NT 3.51

Windows NT 3.51で動作しているコンピュータの場合は次の手順でインストールします。

- Windows NT 3.51を起動する。
- 添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をコンピュータのCD-ROMドライブにセットする。
- ファイルマネージャまたはコマンドプロンプトから、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」の「¥WINNT¥PICNIC¥SETUP¥SETUP.EXE」を実行する。

セットアップウィザードが起動します。メッセージに従ってインストールを続けてください。インストールを完了したら、「セットアップパラメータFDの作成」に進んでください。

セットアップパラメータFDの作成

OSをインストールするために必要なセットアップ情報を設定し、「セットアップパラメータFD」を作成します。以下の手順に従ってください。

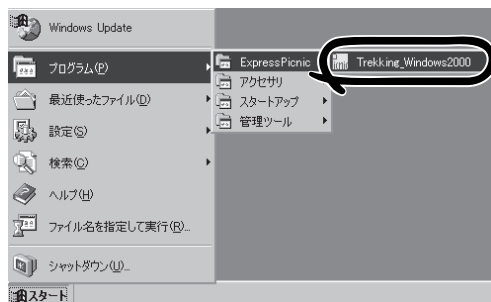


手順の中では、Trekkingコマンドをインストールしたときに指定したフォルダ名を「ExpressPicnic」と仮定しています。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる。

<Windows 2000・Windows NT 4.0・Windows 95/98/Meの場合>

スタートメニューから[プログラム]—[ExpressPicnic]の順にポイントし、[Trekking_Windows 2000]をクリックする。



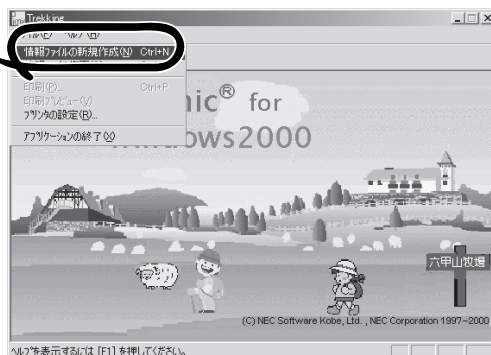
<Windows NT 3.51の場合>

プログラマナーの [ExpressPicnic]グループから [Trekking_Windows 2000]アイコンをダブルクリックする。



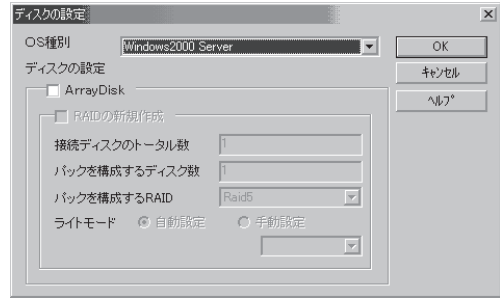
2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

[ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。



3. 各項目を設定し、[OK]ボタンをクリックする。

[基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。

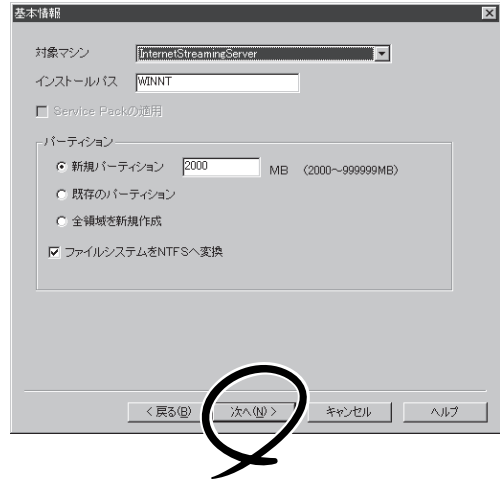


4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]ボタンをクリックする。



[キャンセル]ボタンをクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

セットアップ情報の設定が完了すると、[ファイル保存]ダイアログボックスが表示されます。



5. [セットアップパラメータFD]チェックボックスをオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。

6. 1.44MBでフォーマット済のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]ボタンをクリックする。



「セットアップパラメータFD」が作成できました。「セットアップパラメータFD」はWindows 2000をインストールするときに使用します。ラベルを貼り大切に保管してください。



- 各項目の設定内容についてはヘルプを参照してください。
- 既存の情報ファイル(セットアップパラメータFD)を修正する場合は、ExpressPicnicウィンドウの[情報ファイルの修正]をクリックしてください。ヘルプを参照して情報ファイルを修正してください。

追加アプリケーションのインストール

EXPRESSBUILDER CD-ROMでサポートしていないアプリケーションを追加でインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。

重要 追加でインストールするアプリケーションは、シームレスセットアップ対応されている必要があります。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(85ページ参照)。

2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

[ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。

3. 各項目を設定し、[OK]ボタンをクリックする。

[基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックス順に表示されます。

4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]ボタンをクリックする。

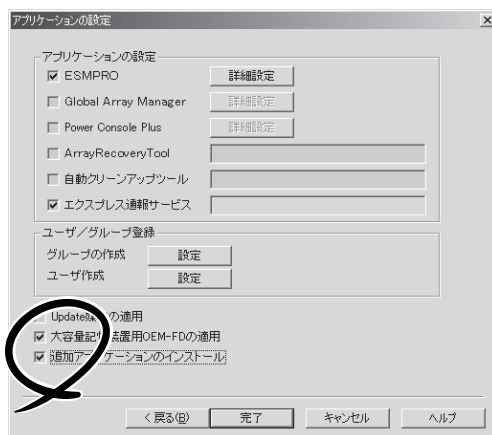
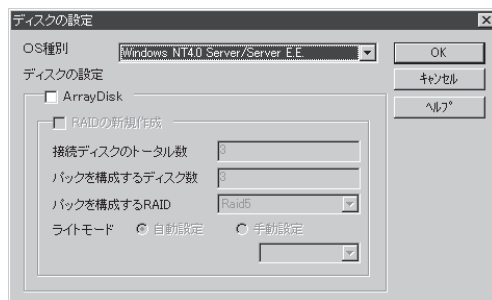
✓ **チェック**

[キャンセル]ボタンをクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

5. [アプリケーションの設定]が表示されたら、[追加アプリケーションのインストール]にチェックを入れる。

6. [ファイル指定]ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータFD]チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。

7. 1.44MBでフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]ボタンをクリックする。



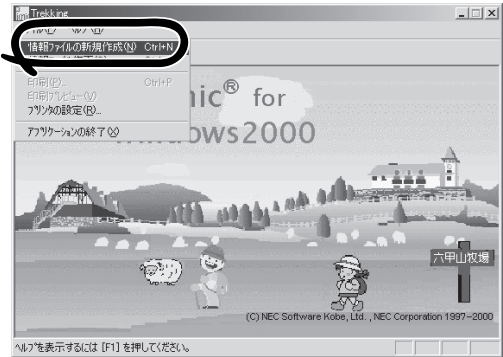
オプションの大容量記憶装置ドライバのインストール

シームレスセットアップに対応しているオプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる (85ページ参照)。

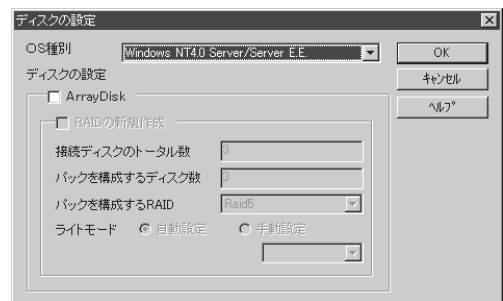
2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

[ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。



3. 各項目を設定し、[OK]ボタンをクリックする。

[基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。



4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]ボタンをクリックする。

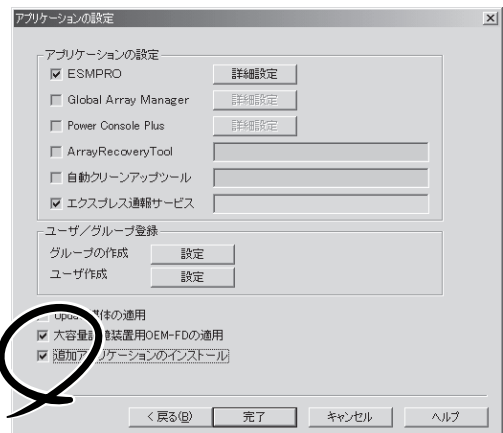


[キャンセル]ボタンをクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

5. [アプリケーションの設定]が表示されたら、[大容量記憶装置用OEM-FDの適用]にチェックを入れる。



Windows 2000用のセットアップ情報ファイルを作成するとき、[ディスクの設定]で[OS種別]を[Windows 2000 Professional]にした場合は選択できません。



6. [ファイル指定]ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータFD]チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。

7. 1.44MBでフォーマット済のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]ボタン をクリックする。

コンピュータからの情報採取

ExpressPicnicが、起動しているマシンのセットアップ情報を自動的に採取し、セットアップ情報ファイルを作成します。

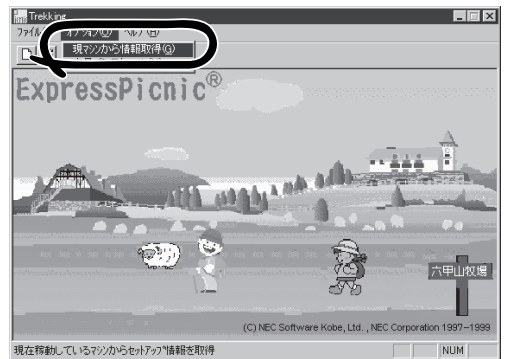


- ユーザ/グループ情報は採取できません。
- リモートアクセスサービス (RAS) については設定情報を採取できません。
- アプリケーションで設定情報を採取できるのは、ESMPRO/ServerAgentだけです。
- 取得できない情報に関しては、既定値を表示しています。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる (85ページ参照)。

2. [オプション]メニューの[現マシンから情報取得]をクリックする。

取得後は、確認/修正画面に移ります。初期値が、取得したデータになっていることを除けば「情報ファイルの新規作成」、あるいは「情報ファイル修正」と同じです。



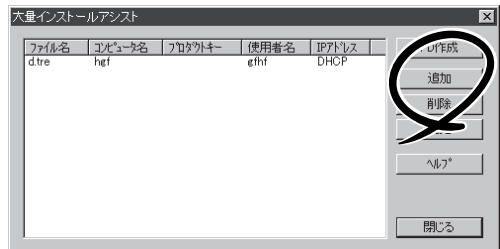
大量インストール

ベースとなるセットアップ情報ファイルを指定し、マシンごとに変更する必要があるパラメータのみ修正して、複数のセットアップ情報ファイルを作成します。

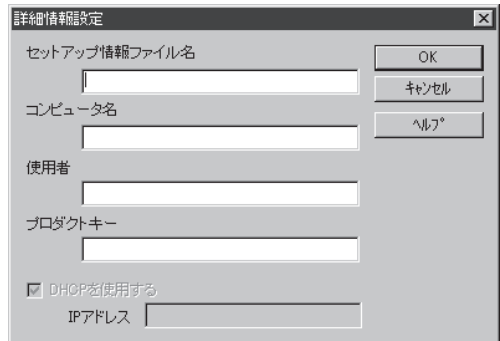
1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる (85ページ参照)。
2. [オプション]メニューの[大量インストール]をクリックする。



3. [ファイルを開く]画面でベースとなるセットアップ情報ファイルを選択する。
ベースとなるセットアップ情報ファイルの設定値がリストの一番上の欄に表示されます。
4. [追加]ボタンをクリックする。



5. ベースとなるセットアップ情報ファイルから変更するパラメータを設定する。
6. [OK]ボタンをクリックする。
リストに追加した情報が表示されます。
7. ファイル名を選択し、[FD作成]ボタンをクリックする。
選択したファイル名のセットアップパラメータFDを作成します。



ESMPRO

ストリーミングサーバシステムの監視をするユーティリティとしてESMPRO/ServerAgent (Windows 2000/Windows NT版)、ESMPRO/ServerManagerがバンドルされています。

ESMPRO/ServerAgent (Windows 2000/Windows NT版)はストリーミングサーバへ、ESMPRO/ServerManagerはネットワーク上の管理PCへインストールし利用します。

ESMPRO/ServerAgent(Windows 2000/Windows NT版)

ESMPRO/ServerAgent (Windows 2000/Windows NT版)はWindows 2000/Windows NTで運用しているストリーミングサーバにインストールするサーバ監視用アプリケーションです。

EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストールの手順を説明します。



ESMPRO/ServerAgent (Windows 2000/Windows NT版)の使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent (Windows 2000/Windows NT版) インストールガイド」を参照してください。

インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgentを動作させるためにはWindows 2000/Windows NTのTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

ネットワークサービスの設定

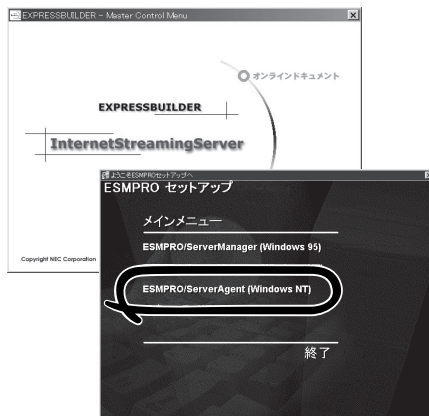
プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動する「ヘルプ」を参照してください。

SNMPサービスの設定

コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使います。ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「public」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を入力します。

インストール

ESMPRO/ServerAgentのインストールは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用します。ストリーミングサーバ上のWindows 2000が起動した後、Autorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]→[ESMPRO]→[ESMPRO/ServerAgent]の順にクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。



- アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。
- Mylexディスクアレイコントローラを監視する場合は、Global Array Managerをインストールする必要があります。EXPRESSBUILDERからESMPRO/ServerAgentのセットアップを起動すると、自動的にGlobal Array Managerのインストーラは起動します。

ネットワーク上のCD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。



アップデートインストールについて

ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。

メッセージに従って処理してください。

インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgentをインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。

1. ストリーミングサーバを再起動する。
2. イベントログを開く。
3. イベントログにESMPRO/ServerAgentの監視サービスに関するエラーが登録されていないことを確認する。

エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめてインストールし直してください。

補足事項

運用の際に注意していただきたい補足事項を記載します。

SNMPサービス(snmp.exe)のCPU負荷率について

ESMPRO/ServerManagerにてサーバを監視中に、ESMPRO/ServerAgent側のSNMPサービスのCPU負荷率がESMPRO/ServerManagerのサーバ状態監視間隔(デフォルト1分)ごとに高くなる場合があります。

ESMPRO/ServerAgentとESMPRO/ServerManagerはSNMPサービスを介して、情報のやり取りを行います。ESMPRO/ServerManagerのサーバ状態監視を有効(デフォルト有効)にしている場合には、定期的にESMPRO/ServerAgentに対して現在のサーバの状態の取得要求が発行され、それに対してESMPRO/ServerAgent側はサーバの状態確認を行うために一時的にSNMPサービスのCPU負荷率が高くなります。

動画再生などを行うアプリケーションにおいて途切れなどの現象が発生する場合は、ESMPRO/ServerManagerのサーバ状態監視をOFFにする、もしくは監視間隔を広げるなどして運用してください。

その他

その他の補足事項については、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent(Windows 2000/Windows NT版)インストールガイド」を参照してください。

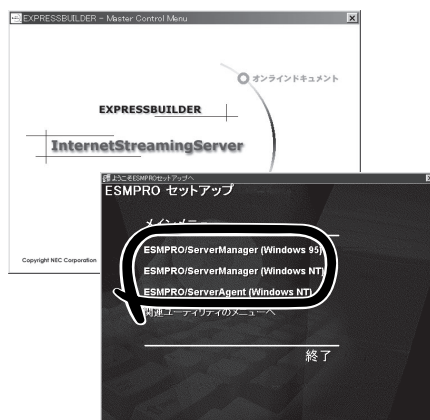
ESMPRO/ServerManager

ESMPRO/ServerAgentがインストールされたストリーミングサーバをネットワーク上の管理PCから監視・管理するには、EXPRESSBUILDERにバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。

管理PCへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメント、またはESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。



ESMPRO/ServerManagerの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストールガイド」を参照してください。



MWA ~Management Workstation Application~

MWA (Management Workstation Application) のインストールおよび起動方法、セットアップについて説明します。



MWAのセットアップと運用に関する詳細な説明については、EXPRESSBUILDER CD-ROM内の以下のパスに格納されている「MWAファーストステップガイド」を参照してください(EXPRESSBUILDERの「マスターコントロールメニュー」からも開くことができます)。

CD-ROMドライブ:¥mwa¥mwa_fsg.pdf

機能と操作方法に関する詳細な説明については、MWAのオンラインヘルプを参照してください。

MWAについて

MWAは、ネットワーク上から管理PC(ESMPRO/ServerManagerが動作しているコンピュータ)を使用して、ストリーミングサーバをリモート管理するためのアプリケーションです。ストリーミングサーバの運用管理を行う管理者の負担を軽減させることができます。

通信方法について

MWAを使用する管理PCがLAN、WAN、ダイレクト(シリアル(COM)ポート)のいずれかの方法でストリーミングサーバと接続されていればMWAを使ったリモート管理ができます。



LAN接続では、LANポート1(100BASE-TX/10BASE-Tコネクタ1)を使用してください。また、WAN、ダイレクト接続はシリアルポート2を使用してください。

MWAの機能

MWAはストリーミングサーバの専用拡張BIOS(RomPilot)やベースボードマネジメントコントローラ(BMC)と接続することにより以下の機能を実現しています。

- リモートコンソール機能

ストリーミングサーバのPOST実行画面およびMS-DOSのブート中の実行画面を管理PC上のMWAのウィンドウから見るができます。またこの間、ストリーミングサーバを管理PCのキーボードから操作できます。

- リモートドライブ機能*

管理PC上のフロッピーディスクドライブまたは、フロッピーディスクのイメージファイルからストリーミングサーバを起動することができます。

* LAN接続時のみの機能です。

● リモート電源制御

管理PC上のMWAからリモートで、ストリーミングサーバに対して以下の電源制御が行えます。

- － パワーON/OFF
- － パワーサイクル (パワーOFFの後、しばらくしてパワーON)
- － リセット
- － パワースイッチ操作

● リモート情報収集

管理用PC上のMWAからリモートで以下の情報を収集することができます。

- － システムイベントログ(SEL)
- － センサ装置情報(SDR)
- － 保守交換部品情報(FRU)
- － CMOS、DMI、ESCD、PCI情報*
- － BMC設定情報

* LAN接続時のみの機能です。

● ESMPROとの連携

ストリーミングサーバのBMCからの装置異常などのSOS通報を受信すると通報内容を解析して、ESMPROのアラートログへ自動的に登録します。

動作環境

MWAを動作させることができるハードウェア/ソフトウェア環境は次の通りです。

● 管理PC(インストールするコンピュータ)

- | | |
|----------------|--|
| － コンピュータ | Windows 95/98/Me、Windows NT 4.0、またはWindows 2000で動作しているコンピュータ |
| － メモリ | OSの動作に必要なメモリ+5MB以上 |
| － ハードディスクの空き容量 | 5MB以上 |
| － LAN接続時 | TCP/IPネットワーク
ESMPRO/ServerManager Ver.3.3以上がインストールされていること |
| － WAN接続時 | モデム(19.2Kbps以上)、電話回線 |
| － ダイレクト接続時 | RS-232Cクロスケーブル、またはRS-232Cインタリンクケーブル |

● MWAでリモート保守する装置

ストリーミングサーバ本体。本装置にはRomPilot、BMCが搭載されています。

MWAのインストール

MWAを使って本装置を管理するには、ストリーミングサーバにMWA Agentを、管理PC側にMWA Managerをそれぞれインストールしてください。

MWA Agentのインストール

MWA Agentは、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使ってストリーミングサーバにインストールします。

1. Windows 2000を起動する。
2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。
Autorun機能によりEXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されます。

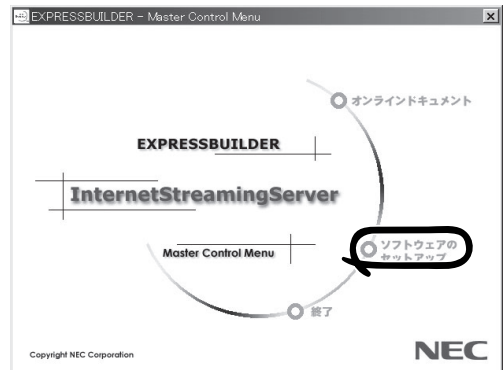
3. [ソフトウェアのセットアップ]－[MWA]の順にクリックする。



右図のようにメニュー上で右クリックしてもポップアップメニューが表示されます。

4. [MWA Agent]をクリックする。

MWA Agentのインストーラが起動します。インストーラの指示に従ってインストールしてください。



MWA Managerのインストール

MWA Managerは、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使って管理PCにインストールします。

1. Windows 2000、またはWindows NT 4.0、Windows 95/98/Meを起動する。
2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。
Autorun機能によりEXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されます。

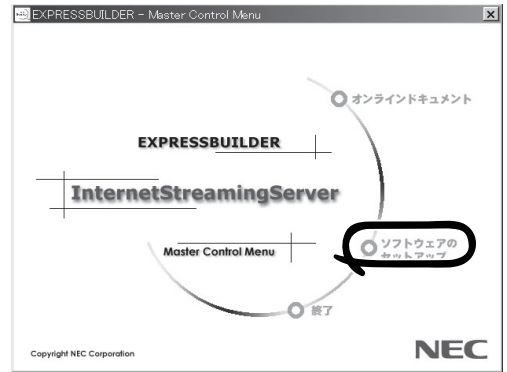
3. [ソフトウェアのセットアップ]—[MWA]の順にクリックする。



右図のようにメニュー上で右クリックしてもポップアップメニューが表示されます。

4. [MWA Manager]をクリックする。

MWAのインストーラが起動します。インストーラの指示に従ってインストールしてください。



リモートマネージメントコンフィグレーション

コンフィグレーションに必要なものは次の通りです。

- EXPRESSBUILDER CD-ROM
- 設定情報

リモート管理するストリーミングサーバの装置台数分の以下の設定情報が必要です。

ー 共通

- ストリーミングサーバのモデル名
- コンピュータ名
- セキュリティキー
- コミュニティ名
- 通報手順
 - 全通報メディア/1つの通報メディア
- 通報リトライ回数
- 通報タイムアウト(秒)

ー LAN接続時

- ストリーミングサーバ側
 - IPアドレス
 - サブネットマスク
 - デフォルトゲートウェイ
 - パスフレーズ
- 通報レベル(LAN)
- 1次通報先/管理PC(1)IPアドレス
- 2次通報先/管理PC(2)IPアドレス
- 3次通報先/管理PC(3)IPアドレス
- リモート制御(LAN)

－ WAN/ダイレクト接続時

- ストリーミングサーバ側
 - 使用モード(モデム/ダイレクト接続)
 - ボーレート
 - フロー制御
 - ダイヤルモード
- 通報レベル(WAN/Direct)
- PPPサーバ接続
 - PPPユーザ名
 - PPPパスワード
- 1次通報先電話番号
- 2次通報先電話番号
- 1次通報先/管理PC(1)IPアドレス *LANと共用
- 2次通報先/管理PC(2)IPアドレス *LANと共用
- 3次通報先/管理PC(3)IPアドレス *LANと共用
- 初期化コマンド
- ハングアップコマンド
- エスケープコード
- リモート制御(WAN/Direct)
- 接続Ring回数
- 通報レベル(ページャ)
- 1次通報先(ページャ) 電話番号
- 2次通報先(ページャ) 電話番号
- ページャメッセージ
- ガイドメッセージ待ち時間

ストリーミングサーバ側のコンフィグレーションには2通りの方法があります。EXPRESSBUILDER CD-ROMからストリーミングサーバを起動して実行する「システムマネージメントの設定」によるコンフィグレーションとストリーミングサーバのWindows 2000上から起動するMWA Agentによるコンフィグレーションです。コンフィグレーションはMWA側とストリーミングサーバ側の両方必要です。詳細な手順については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にある「MWAファーストステップガイド」または、MWAのオンラインヘルプを参照してください。

オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティは、ストリーミングサーバの予防保守、障害解析を行うためのユーティリティです。ESMPROが起動できないような障害がストリーミングサーバに起きた場合は、オフライン保守ユーティリティを使って障害原因の確認ができます。



- オフライン保守ユーティリティは通常、保守員が使用するプログラムです。保守ユーティリティを起動すると、メニューにヘルプ(機能や操作方法を示す説明)がありますが、無理な操作をせずにオフライン保守ユーティリティの操作を熟知している保守サービス会社に連絡して、保守員の指示に従って操作してください。
- オフライン保守ユーティリティが起動すると、クライアントからストリーミングサーバへアクセスできなくなります。

オフライン保守ユーティリティの起動方法

オフライン保守ユーティリティはさまざまな方法で起動することができます。オフライン保守ユーティリティは手動で起動することもできますが、障害発生時に自動起動させることもできます。

● EXPRESSBUILDERからの起動

「EXPRESSBUILDER トップメニュー」から「ツール」-「オフライン保守ユーティリティ」の順に選択すると、CD-ROMよりオフライン保守ユーティリティが起動します。

● フロッピーディスクからの起動

「EXPRESSBUILDER トップメニュー」の「ツール」-「サポートディスクの作成」で作成した「オフライン保守ユーティリティ 起動FD」をセットして起動すると、オフライン保守ユーティリティが起動します。

● 手動起動(F4キー)

オフライン保守ユーティリティをインストール後、ストリーミングサーバの起動時の画面で<F4>キーを押すと、ディスクよりオフライン保守ユーティリティが起動します。

● 手動起動(ESMPROからの操作)

ESMPRO/ServerAgentで「システム再起動後ただちにオフライン保守ユーティリティを起動する」に設定して再起動すると、ハードディスクよりオフライン保守ユーティリティが起動します。

● 自動起動(OS運用中の障害)

OS動作中に致命的な障害が発生し、シャットダウン後、再起動するとオフライン保守ユーティリティが自動的に起動します(あらかじめ、ESMPRO/ServerAgentで、「障害発生時、オフライン保守ユーティリティを起動する」に設定をしておく必要があります)。

● 自動起動(OSブート失敗)

OSブート監視機能が有効な場合、OSのブート(起動)を3回失敗すると、オフライン保守ユーティリティが自動的に起動します。

オフライン保守ユーティリティの機能

オフライン保守ユーティリティを起動すると、以下の機能を実行できます(起動方法により、実行できる機能は異なります)。

- **IPMI情報の表示**

IPMI(Intelligent Platform Management Interface)におけるシステムイベントログ(SEL)、センサ装置情報(SDR)、保守交換部品情報(FRU)の表示やバックアップをします。

本機能により、システムで起こった障害や各種イベントを調査し、交換部品を特定することができます。

- **BIOSセットアップ情報の表示機能**

BIOSの現在の設定値を表示したり、テキストファイルへ出力したりします。

- **システム情報の表示**

プロセッサやBIOSなどに関する情報を表示したり、テキストファイルへ出力したりします。

- **システム情報の管理**

お客様の装置固有の情報や設定のバックアップ(退避)をします。バックアップをしておかないと、ボードの修理や交換の際に装置固有の情報や設定を復旧できなくなります。



システム情報のバックアップの方法については、3章で説明しています。なお、リストア(復旧)は操作を熟知した保守員以外は行わないでください。

- **各種ユーティリティの起動**

EXPRESSBUILDERから保守用パーティションにインストールされた以下のユーティリティを起動することができます。

- システムマネージメント機能
- システム診断
- 保守用パーティションの設定

システム診断

システム診断はストリーミングサーバに対して各種テストを行います。

「EXPRESSBUILDER」の「ツール」メニューから「システム診断」を実行してストリーミングサーバを診断してください。

システム診断の内容

システム診断には、次の項目があります。

- ストリーミングサーバに取り付けられているメモリのチェック
- CPUキャッシュメモリのチェック
- システムとして使用されているハードディスクのチェック
- ストリーミングサーバに標準装備しているネットワーク(LAN)コントローラのチェック



システム診断を行う時は、必ず本体に接続しているLANケーブルを外してください。接続したままシステム診断を行うと、ネットワークに影響をおよぼすおそれがあります。



ハードディスクのチェックでは、ディスクへの書き込みは行いません。

システム診断の起動と終了

システム診断には、ストリーミングサーバ自身のコンソール(キーボード)を使用する方法と、シリアルポート経由で管理PCのコンソールを使用する方法(コンソールレス)があります。

それぞれの起動方法は次のとおりです。



この章の「EXPRESSBUILDER」では、コンソールレスでの通信方法にLANとCOMポートの2つの方法を記載していますが、コンソールレスでのシステム診断ではCOMポートのみを使用することができます。

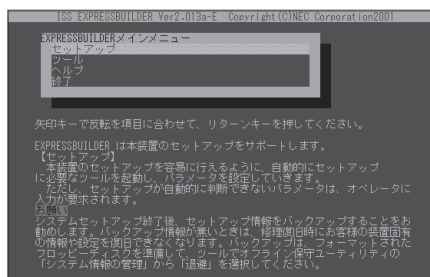
1. シャットダウン処理を行った後、ストリーミングサーバの電源をOFFにし、電源コードをコンセントから抜く。
2. 本体に接続しているLANケーブルをすべて取り外す。
3. 電源コードをコンセントに接続し、ストリーミングサーバの電源をONにする。
4. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使ってストリーミングサーバを起動する。

ストリーミングサーバのコンソールを使用して起動する場合と、コンソールレスで起動する場合で手順が異なります。この章の「EXPRESSBUILDER」を参照して正しく起動してください。

EXPRESSBUILDERから起動すると画面にメニューが表示されます。ストリーミングサーバのコンソールを使用して起動した場合は、ストリーミングサーバに接続しているディスプレイ装置に「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。コンソールレスで起動した場合は、管理PCのディスプレイに「EXPRESSBUILDERメインメニュー」が表示されます。



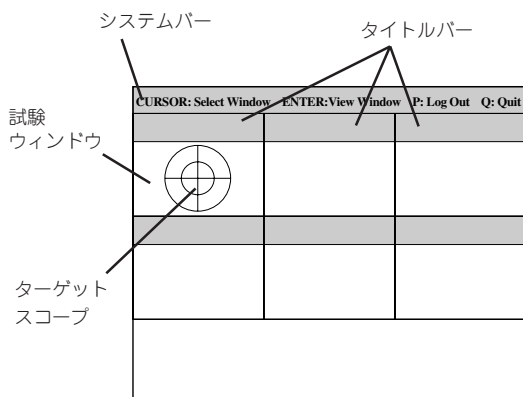
EXPRESSBUILDERトップメニュー



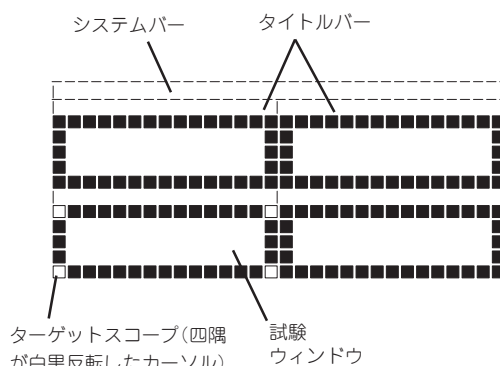
EXPRESSBUILDERメインメニュー

5. [ツール]を選択する。
6. 「ツールメニュー」の[システム診断]を選択する。

システム診断を開始します。約3分で診断は終了します。
診断を終了するとディスプレイ装置の画面が次のような表示に変わります。



コンソールを使用した場合の診断結果画面



コンソールレスでの診断結果画面

- システムバー: 試験中に時間などの情報が表示されます。診断終了後には、ウィンドウを操作するキーの説明が表示されます。
- タイトルバー: 診断の項目が表示されます。エラーを検出したときは、このバーが赤色表示(コンソール)、あるいは項目点滅(コンソールレス)になります。
- 試験ウィンドウ: 診断の経過または結果が表示されます。
- ターゲットスコープ: 試験ウィンドウを選択するためのカーソルです。キーボードのカーソルキーで他の試験ウィンドウに移動します(ここで<Enter>キーを押すと、選択したウィンドウに対する確認ができます。もう一度、<Enter>キーを押すと元の画面に戻ります)。

重要

コンソールレスでの画面を切り替えるキー操作では、次のキーを押してください。

PageUp: <Ctrl> + <A> PageDown: <Ctrl> + <Z>

システム診断でエラーがあった場合はそれぞれ次のような表示で警告を促します。エラーメッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

コンソールを使用した場合: タイトルバーが赤色に変化し、エラーに関する情報が赤色で表示される。

コンソールレスを使用した場合: タイトルバーに表示されている診断の項目が点滅する。

7. <Q>キーを押して、メニューの中から[reboot]を選択する。
ストリーミングサーバが再起動し、システムがEXPRESSBUILDERから起動します。
8. EXPRESSBUILDERを終了し、CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出す。
9. ストリーミングサーバの電源をOFFにし、電源コードをコンセントから抜く。
10. 手順2で取り外したLANケーブルを接続し直す。
11. 電源コードをコンセントに接続する。

以上でシステム診断は終了です。

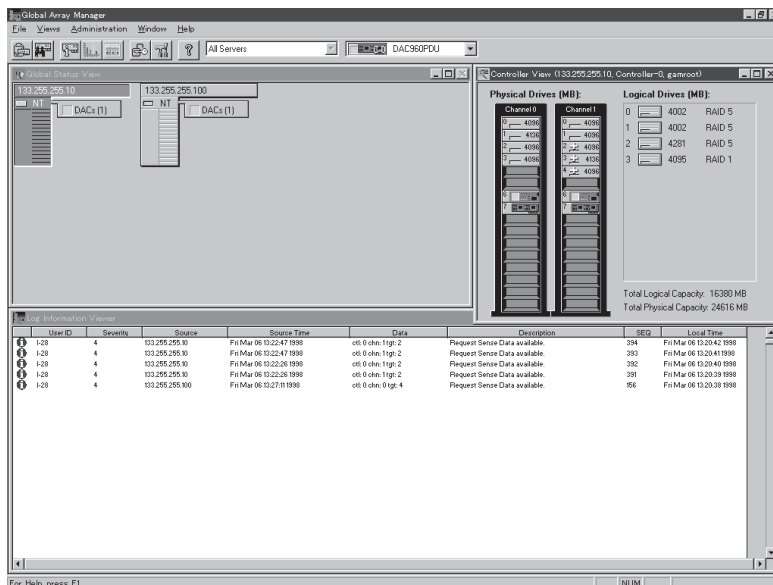
Global Array Manager(GAM)

Global Array Manager (以下「GAM」と呼ぶ)は、SCSIモデル(N8100-787/789)に標準装備のMylexディスクアレイコントローラ(以下「アレイコントローラ」と呼ぶ)とそのアレイコントローラが制御しているディスクアレイシステムのコンフィグレーション、イニシャライズ、管理、モニタリング、メンテナンスを行うためのクライアント/サーバアプリケーションです。

GAMは、ストリーミングサーバ上で動作するGAM Serverと管理コンピュータ上で動作するGAM Clientから構成されます。

GAM Server: アレイコントローラを取り付けているストリーミングサーバ上で動作し、GAM Clientからの管理を実現します。

GAM Client: GUIにより、GAM Serverが動作しているストリーミングサーバ上のアレイコントローラをローカルまたはネットワーク経由で管理コンピュータ(Windows 2000、Windows 95/98/Me、またはWindows NT 4.0)から管理します。



Global Array Manager Server(Windows 2000/Windows NT版)

Global Array Manager (GAM) Server (Windows 2000/Windows NT版)はMylexディスクアレイシステムを構築しているWindows 2000/Windows NTサーバの監視・管理用のアプリケーションです。

GAM Serverの動作環境については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Server (Windows 2000/Windows NT版)インストールガイド」を参照してください。GAMの操作方法については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Managerオペレーションガイド」を参照してください。

プリインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にGAM Serverがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みのGAM Serverの管理者用アカウントである「gamroot」は作成されていますが、パスワードを設定していません。このままでも使用できますが、セキュリティ保持の観点からパスワードを設定されることをお勧めします。

購入時にインストール済みのGAM Serverの設定内容についてはCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「Global Array Manager Server (Windows 2000/Windows NT版)インストールガイド」に記載しています。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

GAM Serverは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に収められているWindows 2000/Windows NT自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。

シームレスセットアップ中にアプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「Global Array Manager」を選択してください。「手動インストール(新規インストール)」の「GAM Serverをインストールする前に」で記載した内容を満足するようにシームレスセットアップ中のセットアップ情報を設定してください(DACドライバはMylexディスクアレイコントローラが接続されたマシンのシームレスセットアップで自動的に組み込まれます)。

シームレスセットアップ後に設定をしなければならない項目は特にありません。

ただし、GAM ClientからGAM Serverを制御するために「administrator」権限を持つユーザ「gamroot」が必要です。シームレスセットアップではこの「gamroot」を作成します。シームレスセットアップでGAMをインストールするときはシームレスセットアップの設定時に「gamroot」のパスワードを設定することをお勧めします。

パスワードを設定しないとセキュリティ上の問題が発生する可能性があります。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。インストールに関する詳しい手順については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Server (Windows 2000/Windows NT版) インストールガイド」を参照してください。また、GAMの操作方法については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Managerオペレーションガイド」を参照してください。

GAM Serverをインストールする前に

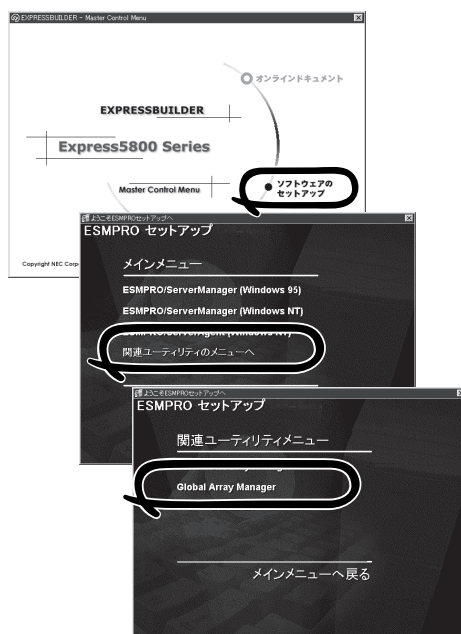
GAM Server (Windows 2000/Windows NT版)をインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- DACドライバが組み込み済みであること
- TCP/IPの設定が終了していること
- システムのアップデートが終了していること
3章を参照してください。
- SNMPサービスの設定が終了していること
ESMPROと連携する場合GAM Serverのインストールに先立って設定を終了させておく必要があります。

GAM Serverのインストール手順

GAM Serverのインストールは添付の「EXPRESSBUILDER」と書かれたCD-ROMを使用します。

Windows 2000/Windows NT 4.0ではEXPRESSBUILDERのCD-ROMをドライブにセット後、Autorunで表示されるメニューから「ソフトウェアのセットアップ」→「ESMPRO」→「関連ユーティリティメニューへ」→「Global Array Manager」の順にクリックします。ここで表示される「セットアップオプションの選択」ダイアログボックスの「GAM Serverインストール」をチェックし、「次へ」ボタンをクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください(各ダイアログボックスでの推奨する操作をヒントにまとめています)。





- アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。
- GAM Serverのインストール後は必ずシステムを再起動してください。



[セットアップの完了]ダイアログボックスの[Global Array Manager[x.xx]の環境設定を行ないます]はチェックしてください。

GAM Serverの環境設定

- **GAMの管理者用アカウントgamrootの登録**

GAMを使用する場合、GAMの管理者用のアカウントであるgamroot(すべて小文字)というユーザが必要です。Windows 2000/Windows NTのユーザマネージャで登録してください。gamrootが所属するグループにはAdministrators(ドメインサーバの場合はDomain Admins)を追加してください。



プリインストールモデルなどでGAM Serverをインストールして出荷している装置については、gamrootユーザは登録済みです。ただし、パスワードを設定していません。セキュリティ保持の観点から必ず、パスワードを設定するようにしてください。

- **GAM Serverの環境設定ファイルの修正**

[セットアップの完了]ダイアログボックスの[Global Array Manager[x.xx]の環境設定を行ないます]をチェックした場合、この作業は不要です。なお、修正する場合はオンラインドキュメント「Global Array Manager Server (Windows 2000/Windows NT版)インストールガイド」を参照してください。

Global Array Manager Client

Global Array Manager (GAM) Clientは、GAM Serverと連携してMylexディスクアレイシステムを監視し、グラフィカルな画面で簡単に管理や操作をすることができます。GAM Clientの動作環境については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Client インストールガイド」を参照してください。GAMの操作方法については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Managerオペレーションガイド」を参照してください。

プリインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にGAM Clientがあらかじめインストールされている場合もあります。GAM Clientがインストール済みのストリーミングサーバに後からESMPRO/ServerManagerをインストールした場合は、環境設定をし直してください。環境設定については後述のGAM Clientの環境設定やCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Clientインストールガイド」に記載しています。

購入時、ストリーミングサーバにインストール済みのGAM Serverの設定内容についてはCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「Global Array Manager Clientインストールガイド」に記載しています。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

GAM Clientは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に収められているWindows 2000/Windows NT自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。

シームレスセットアップ中にアプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「Global Array Manager」を選択してください。なお、シームレスセットアップでTCP/IPの設定をするようにセットアップ情報を設定してください。

シームレスセットアップでGAM Clientをインストールした場合、後からESMPRO/ServerManagerをインストールした場合は、環境設定をし直してください。環境設定については後述のGAM Clientの環境設定やEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Clientインストールガイド」を参照してください。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。インストールに関する詳しい手順については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「Global Array Manager Clientインストールガイド」を参照してください。また、GAMの操作方法については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「Global Array Managerオペレーションガイド」を参照してください。

GAM Clientをインストールする前に

GAM Clientをインストールするときは、次の準備が必要です。

- WindowsのTCP/IPの設定が終了していること
- Windows 2000/Windows NTのシステムにインストールする場合はAdministratorsグループでログオンしていること
- ESMPRO/ServerManagerのインストールが完了していること (ESMPROとの連携を行う場合のみ)
- マウスまたはその他のポインティングデバイスが使えること

GAM Clientのインストール手順

GAM Clientのインストールは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用します。Windows 2000・Windows NT 4.0・Windows 95/98/MeではEXPRESSBUILDERのCD-ROMをドライブにセット後、Autorunで表示されるメニューから[ESMPRO]→[関連ユーティリティメニュー]→[Global Array Manager]の順にクリックします。ここで表示される[セットアップオプションの選択]ダイアログボックスの[GAM Clientインストール]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックし、以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください(各ダイアログボックスでの推奨する操作を ヒントにまとめています)。



重要 Windows 2000/Windows NTのシステムにインストールする場合、インストール時はAdministratorsグループでログオンしてください。



- [セットアップの完了]ダイアログボックスの[Global Array Manager[x.xx]の環境設定を行ないます]はチェックしてください。
- EXPRESSBUILDERのメニューから選択してGAM Clientをインストールする場合はインストール先のシステムの状態によってインストールされるGAM Clientのバージョンが異なります。インストールされるGAM Clientのバージョンについては「Global Array Manager Clientインストールガイド」を参照してください。
特定のバージョンのGAM Clientをインストールする場合も「Global Array Manager Clientインストールガイド」を参照してください。EXPRESSBUILDER内にオンラインドキュメントとして格納されています。
- GAM ClientとGAM Serverのバージョン組み合わせによって有効な場合と無効な場合があります。このため1つのマシンに複数のGAM Clientをインストールし使い分ける必要があります。詳しくはEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメントを参照してください。



GAM Clientの環境設定

GAM Clientをインストールしたら、ここで説明する手順に従って環境設定をします。

ESMPROとの連携のための環境設定

GAM Clientは、ESMPROと連携させることで、ESMPROの統合ビューアのメニューからGAM Clientを起動できるようになります。



ESMPROと連携するための環境設定は、次の場合に必要です。

- GAM Clientのインストール時に環境設定を行わなかったとき
- GAM Clientの後にESMPRO/Server Managerをインストールしたとき

GAM ClientとESMPROを連携させるための環境設定は「コンフィグウィザード」を使います。「コンフィグウィザード」はGlobal Array Managerの環境設定を行うためのプログラムであり、起動するとESMPROと連携するための環境設定を自動的に行います。「コンフィグウィザード」は、GAM Clientのインストール先のディレクトリにある「configwz.exe」を起動することで動作します。

ショートカットの作成について<Windows NT4.0、Windows95/98のみ>

通常は、プログラムメニューからGAM Clientを起動してください。

新たにGAM Clientのショートカットを作成するときは、プログラムメニューにあるショートカットをコピーしてください。

エクスプローラなどからGAM Clientのショートカットを作成したときは、ショートカットのプロパティを以下のように修正してご使用ください。

- **リンク先の内容**

<インストールパス>¥winact.exe /file=<インストールパス>¥gam2cl.act

例)

(変更前)"C:¥Program Files¥Mylex¥GAM Client¥GAM2CL.EXE"

(変更後)"C:¥Program Files¥Mylex¥GAM Client¥winact.exe" /file=C:¥Program Files¥Mylex¥GAM Client¥gam2cl.act

- **アイコンのファイル名**

<インストールパス>¥gam2cl.ico

例)

(変更前)"C:¥Program Files¥Mylex¥GAM Client¥GAM2CL.EXE"

(変更後)"C:¥Program Files¥Mylex¥GAM Client¥gam2cl.ico"

自動クリーンアップツール

自動クリーンアップツールはSCSIモデル(N8 100-787/789)に標準装備のMylexディスクアレイコントローラの整合性をチェックし、検出した不整合を修復するアプリケーションです。

自動クリーンアップツールの動作環境や使用方法については、EXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインストールレーションガイド」を参照してください。

プリインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時に自動クリーンアップツールがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みの自動クリーンアップツールは、スケジュールの設定がされていません。スケジュール設定については、後述の自動クリーンアップツールの環境設定やEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインストールレーションガイド」を参照し、設定してください。

購入時にインストール済みの自動クリーンアップツールの設定内容についてはCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインストールレーションガイド」に記載しています。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

自動クリーンアップツールは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に収められているWindows 2000/Windows NT自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます(DACドライバやGAMドライバはMylexディスクアレイコントローラが接続されたマシンのシームレスセットアップで自動的に組み込まれます)。

シームレスセットアップ中にアプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「自動クリーンアップツール」を選択してください。なお、「手動インストール(新規インストール)」の「自動クリーンアップツールをインストールする前に」で記載した内容を満足するようにシームレスセットアップ中のセットアップ情報を設定してください。

シームレスセットアップはスケジュール設定までは行っていません。スケジュール設定については後述の自動クリーンアップツールの環境設定やEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインストールレーションガイド」を参照し、設定してください。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。
インストールや操作に関する詳しい手順については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「自動クリーンアップツールインストールガイド」を参照してください。

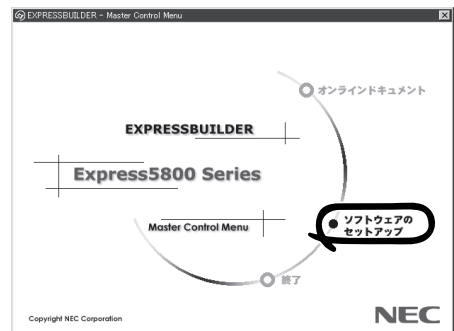
自動クリーンアップツールをインストールする前に

自動クリーンアップツールをインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- DACドライバが組み込み済みであること
 - システムのアップデートが終了していること
- 3章を参照してください。

自動クリーンアップツールのインストール手順

自動クリーンアップツールのインストールは添付CD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用します。Windows 2000/Windows NT 4.0ではEXPRESSBUILDER CD-ROMをドライブにセット後、Autorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]→[自動クリーンアップツール]をクリックします(またはダイアログボックス上で右クリックすると表示されるポップアップメニューから選択します)。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。



重要 アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。

自動クリーンアップツールの環境設定

自動クリーンアップツールのスケジュール起動はWindows 2000/Windows NTの標準機能であるATコマンドのスケジュール機能を利用します。この場合、scheduleサービスが実行中でなければなりません。

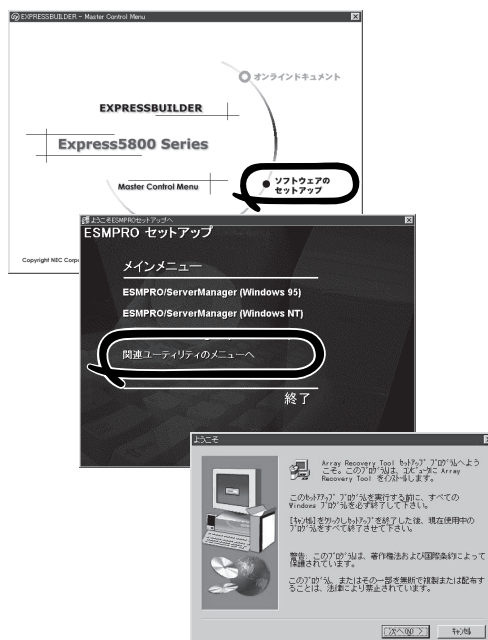
scheduleサービスの起動はコントロールパネルの[サービス]をダブルクリックして表示される[サービス]ダイアログボックスで行います。

- ヒント**
- サービスの設定はAdministratorsローカルグループのメンバーであるユーザアカウントでログオンする必要があります。
 - scheduleサービスのスタートアップは「自動」に設定しておくことをお勧めします。

Array Recovery Tool

Array Recovery Toolは、SCSIモデル(N8100-787/789)に標準装備のMylexディスクアレイコントローラに接続されているハードディスクの状態を監視し、不良ハードディスク(DEAD状態)を検出すると自動的にリビルド、整合性チェックを行い、システムドライブを復旧します。

Array Recovery Toolのインストールは、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用します。インストール終了後に特別な設定などをする必要はありません。Array Recovery Toolのインストールや動作環境の設定についてはEXPRESSBUILDER内のオンラインドキュメントを参照してください。



FastCheck

FastCheckは、IDEモデル(N8100-788)に標準装備のIDEディスクミラーリングボード用の管理・監視ソフトウェアです。

ディスクミラーリングコントローラに接続したハードディスク(アレイディスク)の監視や状態の表示をしたり、万一、異常が起きたときにピープ音やポップアップメッセージの表示などで通知したりします。


また、ESMPRO/ServerAgent (Ver.3.4以降)との連携により、異常が起きたときにESMPRO/ServerManagerをインストールしている管理PCにアラート通報やALIVE通報をすることもできます。

プリインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にFastCheckがあらかじめインストールされている場合もあります。

確認事項

インストール済みのFastCheckについて次の点を確認してください。

- [スタート]メニューの[プログラム]に[Promise]という名前のフォルダが作成されていることを確認する。
- Windows 2000の起動後のタスクトレイに、FastCheckのアイコン()が表示されていることを確認する (FastCheckはWindows 2000常駐型のアプリケーションです)。
- コントロールパネルのサービスで「Promise FastTrak Service」が開始されていることを確認する。
- FastCheckが起動することを確認する。

[Promise]フォルダの中から[Fasttrak]—[FastCheck Monitoring Utility]の順に選択するか、タスクトレイのFastCheckアイコン()をダブルクリックすると起動します。

- FastCheckを起動後、[オプション]—[通知]—[NT システム イベントログの使用]がチェックされていること(デフォルト値です)を確認する。



ESMPRO/ServerManagerをインストールした管理PCにIDEディスクミラーリングコントローラに関するアラート通報やALIVE通報をする場合は、「Promise FastTrak Log Service」が開始されていること、およびFastCheckのオプション設定[NT システムイベントログの使用]がチェックされていない場合があります。

パスワードの設定

セキュリティ上、FastCheckを起動する際にパスワードによる確認ができるよう、パスワードを登録してください。パスワードはFastCheckを起動後、[オプション]—[パスワードを使用可能にする]を選択すると設定する画面が表示されます。

運用上の注意

FastCheckをインストールして運用する上で特に注意していただきたい点について説明します。FastCheckで表示される画面についての説明やその他の注意事項については、オンラインドキュメント「FastCheckユーザズガイド」を参照してください。

- ESMPRO/ServerAgent Ver.3.4以降がインストールされているストリーミングサーバにFastCheckをインストールすることをお勧めします。ESMPROと連携したさまざまな管理・監視機能を利用することができます (ESMPROがインストールされていなくても、FastCheckの動作には支障がありません)。

ただし、ESMPROはVer.3.4以降のバージョンを使用してください。

- FastCheckの設定を変更した場合は、ダイアログボックス内にある[適用]ボタンをクリックして情報を更新してから終了してください。
- FastCheckの以下オプションは規定値から変更しないでください。
 - － [NT システム イベントログの使用] (規定値: チェック)
 - － [書き込みキャッシュを使用可能にする] (規定値: チェック)
 - － [ホットスペア/自動再構築を禁じる] (規定値: チェックなし)
- ディスクのリビルドやシンクロナイズ(整合性の確認)の間もアクセスすることはできませんが、処理時間が長くなる場合があります。
- ESMPROからは、IDEディスクミラーリングコントローラで制御されているハードディスクは、1台のドライブとして認識されます。また、このディスクミラーリングコントローラはディスクアレイではなく、「SCSIコントローラ」として管理されます。

新規インストール

FastCheckを新規にインストールする場合(または再インストールする場合は)、オンラインドキュメント「FastCheckユーザズガイド」を参照してください。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。

本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。

また、お客様のサーバ上で動作するエクスプレス通報サービスと、クライアント上で動作するシステム監視サービス(DMITOOL)を連携させることでシステムを安定に稼働させることができる、クライアント/サーバ型の保守サービス(PC通報連携機能)を提供しています。

プリインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にエクスプレス通報サービスがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みのエクスプレス通報サービスはまだ無効になっておりません。必要な契約を行い、通報開局FDを入手してから、次の操作を行うとエクスプレス通報サービスは有効になります。エクスプレス通報サービス有効後はEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「エクスプレス通報サービスインストレーションガイド」を参照して設定してください。

セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービスを有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスを有効にする操作

次の手順で購入時にインストール済みのエクスプレス通報サービスの機能を有効にします。

1. [コントロールパネル]の[ESMPRO/ServerAgent]を選択する。
2. [全般]タブの[通報の設定]ボタンをクリックする。
アラートマネージャ設定ツールが起動します。
3. [ツール]メニューの[エクスプレス通報サービス]、[サーバ]を選択する。
[エクスプレス通報サービスセットアップユーティリティ]が起動します。
4. 通報開局FDをフロッピーディスクドライブにセットし、通報開局FDを読み込む。
エクスプレス通報サービスが有効となります。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。

エクスプレス通報サービスのセットアップ環境

エクスプレス通報サービスをセットアップするためには、以下の環境が必要です。

ハードウェア

- メモリ 18.0MB以上
- ハードディスクの空き容量 30.0MB以上
- モデム
ダイヤルアップ経由の通報を使用する場合、モデムが必要です。ダイヤルアップ経由エクスプレス通報で使用するモデムはNECフィールディングにご相談ください。
- メールサーバ
電子メール経由の通報を使用する場合、SMTPをサポートしているメールサーバが必要です。

ソフトウェア

- Microsoft® Windows® 2000 日本語版(Server/Advanced Server/Professional)
- ESMPRO/ServerAgent Ver.3.1以降

セットアップに必要な契約

セットアップを行うには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでない、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスのセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

PC通報連携機能

PC通報連携機能は、クライアントで発生した障害の情報を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報するサービスです。このサービスを使用することにより、クライアントの障害を事前に察知したり、障害発生時、すみやかに保守することができます。

PC通報連携機能のセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

また、別途PC通報連携機能での契約が必要となります。お買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

ESMPRO/UPSController Ver.2.1

BTO(ビルド・トゥ・オーダー)でインストールされるESMPRO/UPSController Ver.2.1について説明します。



ビルド・トゥ・オーダーで指定されたバンドルソフトウェア、あるいはオーダーされたソフトウェアです。なお、EXPRESSBUILDERには含まれていません。

プリインストールモデルでのセットアップ

ストリーミングサーバのモデルの中には出荷時に「ESMPRO/UPSController」がインストール済み場合がありますが、設定値はデフォルト値のままになっている場合があります。ここで示す手順に従ってお客様のご使用環境に合わせた状態にセットアップしてください。

ESMPRO/UPSControllerサービス(SPOC-I Service)の起動

[サービスコントロールマネージャ]を開き、[SPOC-I Service]を開始してください。すでに、[SPOC-I Service]が開始されている場合はそのままかまいません。[コントロールパネル]を閉じてください。

動作確認

SPOC-I Serviceが起動後、約1分以上経過してから次の方法で動作を確認します。動作確認は、「確認1」、「確認2」の両方とも行ってください。「確認1」、「確認2」の両方が「正常」な場合は、動作に問題ありません。この後の「設定変更」に示すの処理を行う必要はありません。

■ 確認1 イベントビューアによる確認

Windows 2000の「イベントビューア」でESMPRO/UPSControllerが正常に起動していることを確認してください。

1. [イベントビューア]を起動する。
2. [イベントビューア]のメニューバーから[ログ]を選択し、[システム]を選ぶ。
3. 上記により表示されたイベントの中から[ソース]名が「SPOC-I Service」のものを選ぶ。
4. イベントの[詳細]を表示し、以下のイベントの[説明]があることを確認する。

[正常] UPS通信開始

[異常] UPS通信エラー(無応答)

このイベントが存在した場合、この後の「設定変更」を参照してESMPRO/UPSControllerの設定を変更してください。

■ 確認2 ESMPRO/UPSControllerのGUIによる確認

「確認1」で「正常」を確認した後、GUIでUPSの情報が正しく表示されていることを確認してください。

1. [スタート]メニューの[プログラム]－[ESMPRO_UPSController]－[UPSController マネージャ]を起動する。
起動方法の詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。
2. [UPSController マネージャ]のメイン画面(チャート)でUPSの情報が表示されていることを確認する。
[正常] UPS情報の「商用電源の値(V)」、「商用最大電圧の値(V)」、「商用最小電圧の値(V)」、「負荷容量の値(%)」等が表示される。
[異常] UPS情報の「商用電源の値(V)」、「商用最大電圧の値(V)」、「商用最小電圧の値(V)」、「負荷容量の値(%)」等が表示されない。
この後の「設定変更」を参照してESMPRO/UPSControllerの設定を変更してください。

設定変更

「動作確認」の「確認1」、または「確認2」で「異常」だった場合は、次の設定内容を確認して設定を変更してください。

1. [スタート]メニューの[プログラム]－[ESMPRO_UPSController]－[UPSController マネージャ]を起動する。
起動方法の詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。
2. [UPSController マネージャ]のメニューバーより、[設定] - [動作環境の設定]を選択し、下記の設定画面を表示し、各設定内容を確認する。

コンピュータとUPSの通信を行うCOMポート番号を正しく設定する。

[インテリジェントUPS BP-XI-RM]に設定する。

ESMPRO/AutomaticRunningControllerと連携して使用する場合に「する」を設定する。(連携して使用しない場合は、必ず「しない」に設定してする。)

3. 正しく設定した後、[UPSController マネージャ]のメニューバーより、[ファイル]－[上書き保存]を選択し、設定を保存する。
4. [コントロールパネル]の[サービス]を開き、[SPOC-I Service]を再起動する。
5. 前ページの動作確認をする。

新規インストール

ESMPRO/UPSController Ver2.1を新規にインストールする手順を説明します。

ESMPRO/UPSControllerのアンインストール

現在コンピュータにインストールされているESMPRO/UPSControllerをアンインストールしてください。

ESMPRO/UPSControllerのアンインストールは、「ExpressServerStartup」のCD-ROMと「ESMPRO/UPSController Ver.2.1 (UL 1047-401)」のKey-FD (キーディスク) を使ってアンインストールしてください。

ESMPRO/UPSControllerのアンインストールについての詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

アンインストール後は、必ずコンピュータを再起動してください。

インストール

ESMPRO/UPSControllerのインストールは、「ExpressServerStartup」のCD-ROMと「ESMPRO/UPSController Ver2.1 (UL 1047-401)」のKey-FD (キーディスク) を使ってインストールしてください。

ESMPRO/UPSControllerのインストールについての詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

アップデートインストール

アップデートは次の手順に従ってください。

1. Administratorsローカルグループに所属するユーザーでログオンする。
2. 安全のために、必要最小限のアプリケーション (Serverサービスなど) を除くアプリケーションを終了する。
3. 「スタートメニュー」-「設定」-「コントロールパネル」-「サービス」で次のサービスを停止する。
 - SPOC-I Service
 - ESMPRO/ARC Service
 - SNMP Service
4. 「ExpressServerStartup」のCD-ROMをCD-ROMドライブに、「ESMPRO/UPSController Ver2.1 (UL 1047-401)」のKey-FD (キーディスク) をフロッピーディスクドライブにセットする。
5. 「ExpressServerStartup」CD-ROMの中にある「SETUP.EXE」を起動する。
ESMPRO/UPSControllerのアップデートが開始されます。
6. アップデート完了後、システムを再起動する。

- 再起動後、ESMPRO/UPSControllerマネージャを起動し、ESMPRO/UPSControllerのバージョンを確認する。

ESMPRO/UPSController Version 2.1

以上でアップデートは終了です。

PowerChute *plus* Ver.5.11J/5.2J

BTO(ビルド・トゥ・オーダー)でインストールされるPowerChute *plus* Ver.5.11J/5.2Jについて説明します。



ビルド・トゥ・オーダーで指定されたバンドルソフトウェア、あるいはオーダーされたソフトウェアです。なお、EXPRESSBUILDERには含まれていません。

プリインストールモデルでのセットアップ

ストリーミングサーバのモデルの中には出荷時に「PowerChute *plus*」がインストール済み場合があります。ただし、PowerChute *plus*はデフォルト値の状態です。

ここで示す手順に従ってお客様のご使用環境に合わせた状態にセットアップしてください。

PowerChute *plus*サービス(UPS-APC PowerChute *plus* Service)の起動

[コントロールパネル]の[サービス]を開き、[UPS-APC PowerChuteplus Service]を開始してください。すでに[UPS-APC PowerChuteplus Service]が開始されている場合はそのままかまいません。[コントロールパネル]を閉じてください。

動作確認

UPS-APC PowerChute *plus* Serviceが起動後、約1分以上経過してから次の方法で動作を確認します。

動作確認は、「確認1」、「確認2」の両方とも行ってください。「確認1」、「確認2」の両方が「正常」な場合は、動作に問題ありません。この後の「設定変更」に示す処理を行う必要はありません。

■ 確認1 イベントビューアによる確認

Windows 2000/Windows NTの「イベントビューア」でPowerChute *plus*が正常に起動していることを確認してください。

1. [イベントビューア]を起動する。
2. [イベントビューア]のメニューバーから[ログ]を選択し、[システム]を選ぶ。
3. 上記により表示されたイベントの中から[ソース]名が「UPS」のものを選ぶ。
4. イベントの[詳細]を表示し、以下のイベントの[説明]があることを確認する。

[正常] UPSとの通信が確立しました。

[異常] UPSとの通信が確立できません。

このイベントが存在した場合、この後の「設定変更」を参照してPowerChute *plus*の設定を変更してください。

■ 確認2 PowerChute plusのGUIによる確認

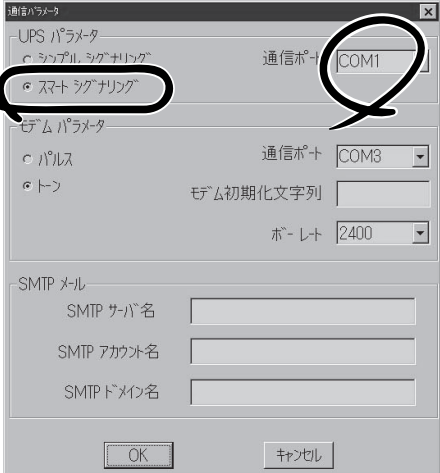
「確認1」で「正常」を確認した後、次の手順でUPSの情報が正しく表示されていることを確認してください。

1. [スタート]メニューの[プログラム]—[PowerChutePLUS]—[PowerChutePLUS]を起動する。
起動方法の詳細はPowerChute plusの「インストールガイド」を参照してください。
2. [PowerChutePLUS]のメイン画面(チャート)でUPSの情報が表示されていることを確認する。
[正常] データフィールドエリアの「UPS出力」、「最小電圧」、「最大電圧」、「UPS温度」、「出力周波数」などが表示される。
[異常] UPS情報の「UPS出力」、「最小電圧」、「最大電圧」、「UPS温度」、「出力周波数」などがグレーアウトで表示されている。
この後の「設定変更」を参照してPowerChute plusの設定を変更してください。

設定変更

「動作確認」の「確認1」、または「確認2」で「異常」だった場合は、次の設定内容を確認して設定を変更してください。

1. [スタート]メニューの[プログラム]—[PowerChutePLUS]—[PowerChutePLUS]を起動する。
起動方法の詳細は、PowerChute plusの「オンラインヘルプ」、またはPowerChute plusに添付の「ユーザーズガイド」を参照してください。
2. [PowerChutePLUS]のメニューバーより、[構成]—[通信パラメータ]を選択し、下記の設定画面を表示し、各設定内容を確認する。



通信シグナルが[スマートシグナリング]であることを確認する。

コンピュータとUPSの通信を行うCOMポート番号を正しく設定する。

3. 正しく設定した後、[OK]ボタンをクリックし、「PowerChutePLUS」のメニューバーより、[システム]—[別のサーバを監視]を選択し、再度監視するサーバを選択する。
4. 前ページの動作確認をする。

新規インストール

PowerChute *plus*の新規インストール(再インストール)については、PowerChute *plus*に添付の「インストールガイド」を参照してください。

